

第 30 回文化財の保存修復に関する国際研究集会
「無形文化遺産の保護 国際的協力と日本の役割」 (無 05-06-1/1)

「第 30 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会」は、無形文化遺産部の担当で開催された。

無形文化遺産の保護をめぐるのは、2001 (平成 13) 年のユネスコによる「人類の口承及び無形遺産の傑作」第 1 回宣言以来、世界各国において急速にその意識が高まりを見せ、その保護の枠組みも 2003 (平成 15) 年に締結され、2006 年 4 月に発効した「無形文化遺産の保護に関する条約」により整備されつつある。しかし、長い保護の歴史と経験を有する有形文化遺産の保護と比べ、無形文化遺産の保護に関してはこれから検討していくべき課題が未だ数多く存在している。

今回の研究集会では、関係する研究機関・保護行政関係者等の異なった立場の内外の参加者が、それぞれの直面している問題点や将来的な展望に関して発表し、情報の共有化を図るとともに、この分野における今後の国際的協力のあり方と日本の役割につき、研究的側面を中心として討議を実施した。

日 時：2007 (平成 19) 年 2 月 14 日 (水) ~ 16 日 (金) 会 場：東京文化財研究所セミナー室

参加者数：74 名 (一般参加者のみ)

第 1 日

開会式

主催者挨拶

鈴木規夫 (東京文化財研究所)

基調講演 1：日本の無形文化遺産保護と無形文化遺産保護条約

宮田繁幸 (東京文化財研究所)

基調講演 2：ユネスコ無形文化遺産保護条約

その採択 (2003) から第 1 回政府間委員会開催 (2006.11) まで 愛川紀子 (ユネスコ)

セッション：各国の無形文化遺産保護の現状と課題

中国の無形文化遺産保護の国際的重要性

白庚勝 (中国・中国民間文芸家協会)

日本の無形文化遺産 古典芸能の伝承と将来

飯島満 (東京文化財研究所)

第 2 日

セッション：各国の無形文化遺産保護の現状と課題

無形文化遺産の保護と人間文化財：経験と挑戦

イム・ドンヒ (韓国・東国大学)

日本における『無形文化財』の保護の現状と課題

工芸技術を中心として

佐々木正直 (文化庁伝統文化課)

インドネシアの無形文化遺産の保護：システム、計画、活動と問題

ガウラ・マンチャチャリタディプラ (インドネシア・文化専門家)

セッション：各国の無形文化遺産保護の現状と課題

日本の無形民俗文化財の保護

菊池健策 (文化庁伝統文化課)

フィリピン：無形文化遺産の保護について

ヘスス・ペラルタ (フィリピン・国家文化芸術委員会)

近年のヴェトナムにおける無形文化遺産の保護とコミュニティの関与

グウェン・キム・ドゥン (ヴェトナム・文化情報省文化遺産部)

セッション IV：国際的協力における日本の経験

伝統芸能の保護と映像記録の役割

福岡正太 (国立民族学博物館)

無形文化遺産とコミュニティのキャパシティビルディング

大貫美佐子 (財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み

俵木悟 (東京文化財研究所)

第 3 日 総合討議：アドバイザー・植木行宣、佐藤國雄、星野紘